

(別表1)

事業継続力強化支援計画

事業継続力強化支援事業の目標

I 現状

(1) 地域の災害リスク

○玉名市の立地環境状況

玉名市は熊本県の北西部、菊池川の下流域に位置し、東西約 14.5 km、南北 17 km、面積約 152 km²を有する都市である。菊池川の下流域に広がる玉名平野を中心に、北部は小岱山地の谷が発達したなだらかな丘陵地、南東部は金峰山系の山々に続く起伏の小さい台地に囲まれ、南西部は有明海に面している。中心となる玉名平野は三角州を形成しており、その前縁には江戸時代から進められてきた埋立・干拓地が有明海に向かって広がっている。菊池川は有明海特有の大きな干満差による潮位変動の影響を受けている。このため、玉名平野は菊池川による土砂等の堆積作用と有明海の海退等により形成された沖積平野となっている。この沖積平野は形成年代も新しく、地下水面も高いことから軟弱地盤が広がっており、災害に対して危険性が高くなることがある。又、本市の気候(2017年気象庁：岱明観測所)は海に面していながらも気温の年較差が大きい内陸型気候の特徴を持っている。年平均気温は約 17 度、年最高気温約 38 度、年最低気温-4 度であり、居住環境として気象条件に恵まれている。年平均風速は約 2m/秒、このうち最大瞬間風速は約 23m(北風向)である。

(洪水：ハザードマップ)

玉名市のハザードマップによると、本市は西に海、東に山地が位置する関係上、風に乗って海からの暖かく湿った空気が市域に入りやすく大雨や集中豪雨が発生しやすい地形を有している。又、年間の降水量は約 1,650 mmで全国平均雨量約 1,700 mmと比較しても、ほぼ同量であるが、このうち約 4割近くが梅雨時期である例年 6 月前半頃から 7 月後半頃に降雨が集中しており、過去に水害を引き起こしている現状であり、特に宿泊業者が多い玉名市立願寺地区では最大 3~5mの浸水被害が予想されている。

(土砂災害：ハザードマップ)

玉名市のハザードマップによると、本市の梅雨時期は川が増水する危険、崖崩れや落雷や竜巻等の発生など警戒が必要な時期でもある。又、ゲリラ豪雨のように短時間で川が増水を引き起こす大雨の場合もある。よって、特に山間地域一帯は土石流、地滑り、急傾斜地の崩壊が生じる恐れがある特別警戒、警戒区域となっている。

↓玉名市ハザードマップ(洪水・土砂災害)

URL:<https://www.city.tamana.lg.jp/q/aview/102/16409.html>

(地震：J-SHIS)

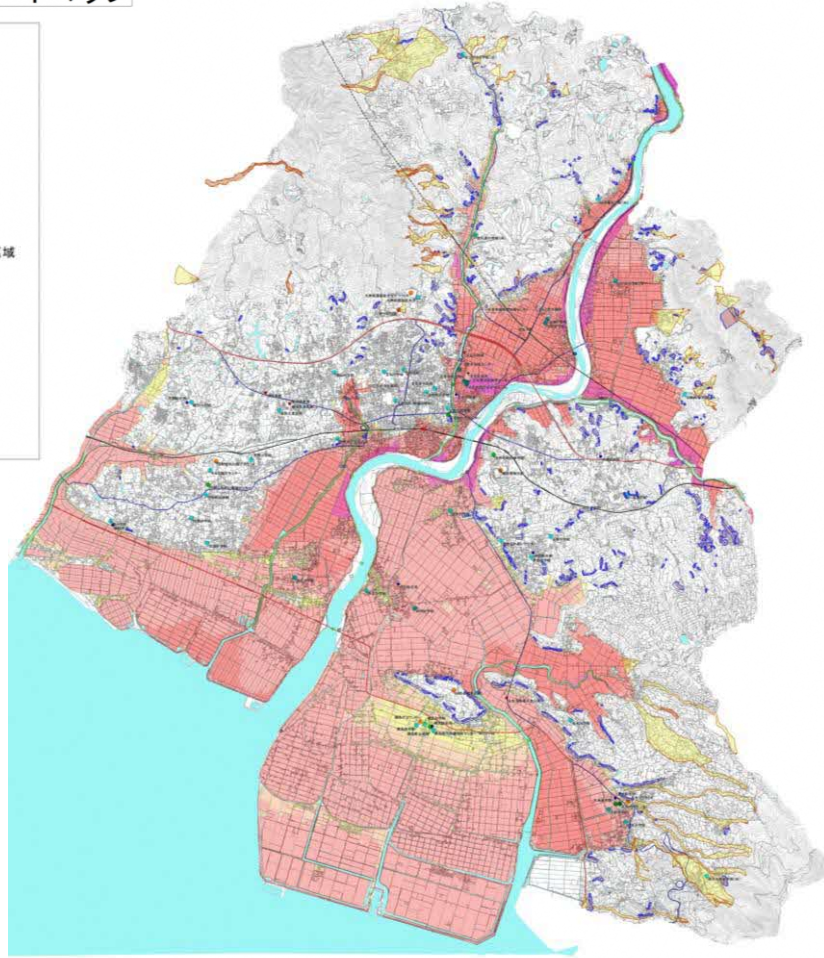
地震ハザードステーションの防災地図によると、震度 6 弱以上の地震が今後 30 年間で 3%の確率で発生する可能性である。熊本県内には日本の主な活断層の中で「布田川・日奈久断層帯」、「人吉盆地南縁断層帯」、「雲仙断層帯」を始め多くの活断層が県内に分布している。本市に大きな影響を及ぼす主要活断層としては、「布田川・日奈久断層帯」「雲仙断層帯」があり、これに加え「南海トラフ」についても、その想定される規模の大きさから本市への影響は多大であると想定される。

↓地震ハザードステーション(J-SHIS)玉名市

URL:<http://www.j-shis.bosai.go.jp/map/>

洪水・土砂災害ハザードマップ

- 浸水深**
 - 0.5m未満
 - 0.5m~1.0m
 - 1.0m~3.0m
 - 3.0m~5.0m
 - 5.0m以上
- 家屋倒壊等氾濫区域**
 - 氾濫流
 - 河岸浸食
- 特別警戒区域等土石流**
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 急傾斜**
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 施設**
 - 指定緊急避難場所
 - 一次避難所
 - 二次以降の避難所
 - 警察関連施設
 - 消防関連施設
 - 災害時拠点病院
 - 水位観測所
 - 危機管理型水位計
 - 河川監視カメラ
 - アンダーパス



>>>J-SHIS 地震ハザードステーション

English 防災科研

東京都玉名市岩崎163 場所を検索

確率的地震動予測地図 長期平均ハザード 地震カテゴリー別地図 条件付超過確率 想定地震地図 表層地盤 深部地盤 被災人口

2019年(NIED作成版)

密度6弱以上となる確率 断面をクリックしてください

海溝型地震発生頻度

- 主要活断層帯
- その他の活断層
- 海溝型地震発生頻度
- 海溝型地震発生頻度
- 主要活断層帯地盤シーム

地すべり地形

地すべり地形 (研究資料)

速達率

J-SHIS Top

- 操作方法
- 地震本部の報告書
- 用語集
- FAQ
- Download
- KML

海溝型地震発生頻度に対する条件付超過確率は計算されていません。

0 1 10 20 30 40 50 100 (%)

(その他)

○台風による災害

玉名市では、台風が九州の西岸に接近して北上、又は西岸に上陸後九州を横断する場合に、暴風・大雨に特に注意が必要であり、有明海沿岸では高潮災害の可能性も高くなる。一方、台風が九州の東側を進む場合は、風による災害に比べて大雨による災害が発生しやすくなる。

(感染症)

新型インフルエンザは、10年から40年の周期で出現し、世界的に大きな流行を繰り返している。また、新型コロナウイルス感染症のように国民の大部分が免疫を獲得しておらず、全国的かつ急速なまん延により、玉名市においても多くの市民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがある。

(2) 商工業者の状況 令和3年1月31日現在

- ・商工業者数 648人
- ・小規模事業者数 523人

【内訳／県被害調査区分】

業種	商工業者数	小規模事業者数	備考(事業所立地状況等)
卸売・小売業	218	160	玉名市内に広く分散している
宿泊・飲食サービス	195	158	宿泊は繫根木川沿いに多い
製造業	46	35	玉名市内に広く分散している
建設業	116	111	玉名市内に広く分散している
その他	73	59	玉名市内に広く分散している
合計	648	523	

(3) これまでの取組み

1) 当市の取組

- ・防災計画の策定 避難所の設定、防災マップの作成と周知
- ・HP、防災無線、オフトークを通して防災情報を提供
- ・防災備品の備蓄 玉名市総務部にて、食料、水、消耗品等を備蓄
- ・防災訓練 各地区や学校にて防災訓練
- ・玉名市新型インフルエンザ等対策行動計画の策定

2) 当会の取組

- ・平成25年商工会危機管理マニュアルの策定(令和2年更新)
- ・防災備品・支援物資の搬入搬出の支援
- ・事業者BCPに関する国の施策の周知

II 課題

現状では、緊急時の取組みについて漠然的な記載にとどまり、協力体制の重要性についての具体的な体制やマニュアルが整備されていない。加えて、平時・緊急時の対応を推進するノウハウを持った人員が十分にいない。更には、保険・共済に対する助言を行える当会経営指導員等職員の不足といった課題が浮き彫りになっている。

また、地区内の小規模事業者における事業継続計画(BCP)や事業継続力強化計画の策定の必要性に関する認識がまだまだ低い現状がみられる。

更に、感染症対策において、地区内小規模事業者に対して予防接種の推奨や手洗いの徹底、体調不良者を出社させないルール作りや、感染拡大時に備えてマスクや消毒液等の衛生品の備蓄、リスクファイナンス対策として保険の必要性を周知するなどが必要である。

(1) 事業者BCPの策定が進んでいない

当地区は幸い災害が少ない地域であったこともあり、事業継続計画等を策定している事業者はごく一部の規模が大きな事業所に限られている。事業継続力計画等の策定に関する取組状況は、啓発段階にあり、これらを支援する当会の取組も本格化していないのが実態である。当市と当会との連携による取組強化の必要性が高まっている。

(2) 支援者側の課題

支援者側の事業継続計画等策定に関する知識が不十分であり支援スキルの向上や、事業継続の取り組みに関する専門知識やノウハウを持つ専門家や損保会社等との連携が必要である。

(3) 小規模事業者の策定手法

国をはじめ関係機関等から事業継続計画（BCP）の策定ガイドラインやフォーム等が提供されているが、小規模事業者にとってはハードルが高過ぎるとの意見があっているため、小規模事業者向けとして事業継続力強化計画の策定支援から取り組む。

III 目標

- ・ 当会より地区内小規模事業者に対し自然災害リスクや感染症等リスクを認識させ、保険等・影響軽減策などリスクマネジメントを事前に対策する必要性を周知する。
- ・ 発災時における被害状況把握・報告・応急復旧活動状況の確認のため、連絡体制を円滑に行うため、当会と当市との間における被害情報報告ルートを構築する。
- ・ 発災後、速やかな復興支援策が行えるよう、また域内において感染症発生時（感染症は「発生」というタイミングがありません。「海外発生期」、「国内感染者発生期」、「国内感染拡大期」、「社内感染者発生期」と細分化しておくことも有用。）には速やかに拡大防止措置を行えるよう、組織内における体制、関係機関との連携体制を平時から構築する。

<事業者BCP策定の推進に関すること>

- ・ 地域内事業者を対象とした、事業継続力強化計画に関するセミナーを年に1回実施する。
開催通知は、対象者への郵送及び当会と当市広報のページにて情報発信する。
- ・ 事業所が策定した事業継続計画（BCP）もしくは事業継続力強化計画の取り組み状況の確認や必要に応じて見直し修正を行い、従業員・関係者に周知を行うなどのフォローアップを実施する。

事業継続力強化支援事業の内容及び実施期間

(1) 事業継続力強化支援事業の実施期間（令和3年4月1日～令和8年3月31日）

(2) 事業継続力強化支援事業の内容

- ・ 当会と玉名市の役割と体制を明確にし、連携して以下の事業を実施する。

< 1. 事前の対策 >

本計画と玉名市地域防災計画書や令和2年に策定した「感染症予防マニュアル」の整合性を整理し、自然災害発災時や感染症発生時に速やかな応急対策等に取り組めるようにする。

1) 小規模事業者に対する災害リスクの周知

- ・ 巡回指導時にハザードマップを用いながら、事業所立地場所の自然災害等のリスク及びその影響を軽減するための取り組みや対策（事業休業への備え、水災補償等の損害保険・共済加入、行政の支援策の活用等）について説明する。
- ・ 会報や市広報、ホームページ、SNS等において、国の施策の紹介や、リスク対策の必要性、損害保険の概要、事業者BCPに積極的に取り組む小規模事業者の紹介等を行う。
- ・ 小規模事業者に対し、事業者BCP（即時に取り組み可能な簡易的なもの含む）の策定による実効性のある取り組みの推進や、効果的な訓練等について指導および助言を行う。
- ・ 事業継続の取り組みに関する専門家を招き、小規模事業者に対する普及啓発セミナーや行政の施策の紹介、損害保険の紹介等を実施する。
- ・ 新型コロナウイルス感染症は、いつでも、どこでも発生する可能性があり、感染の状況も日々変化するため、事業者には常に最新の正しい情報を入手し、デマに惑わされることなく、冷静に対応することを周知する。
- ・ 新型コロナウイルス感染症に関しては業種別ガイドラインに基づき、感染拡大防止策等について事業者への周知を行うとともに、今後の感染症対策に繋がる支援を実施する。
- ・ 事業者へ、マスクや消毒液等の一定量の備蓄、オフィス内換気設備の設置、ITやテレワーク環境を整備するための情報や支援策等を提供する。

< 定量目標 >

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
セミナー開催数	1	1	1	1	1
BCP策定件数	3	3	3	3	3

BCP策定件数：経営指導員・経営支援員1名あたり1件を策定目標とする。

2) 商工会議所、商工会自身の事業継続計画作成

- ・ 当会は令和3年1月、事業継続計画を策定（別添）

3) 関係団体等との連携

- ・ 事業継続力強化支援に取り組まれている専門家に依頼し、会員事業者以外も対象とした普及啓発セミナーや損害保険の紹介等を実施する。
- ・ 関係機関への普及啓発ポスター掲示、セミナー等の共催。
- ・ 感染症に関しては、収束時期が予測しづらいこともあり、リスクファイナンス対策として各種保険（生命保険や障害保険、感染症特約付き休業補償など）の紹介等も実施する。

4) フォローアップ

- ・小規模事業者の事業者BCP等取り組み状況の確認
- ・当会と当市で、状況確認や改善点等について協議する。

5) 当該計画に係る訓練の実施

- ・自然災害が発生したと仮定し、玉名市との連絡ルートの確認等を行う。訓練は必要に応じて実施する。

< 2. 発災後の対策 >

- ・自然災害等による発災時には、人命救助が第一であることは言うまでもない。そのうえで、下記の手順で地区内の被害状況を把握し、関係機関へ連絡する。

1) 応急対策の実施可否の確認

- ・発災後、3時間以内に職員の安否確認を行う。
- ・商工会の事業継続計画に従い、SNSで迅速に確認する。
- ・国内感染者発生後には、職員の体調確認を行うとともに、事業所の消毒、職員の手洗い・うがい等の徹底を行う。
- ・感染症流行や、新型インフルエンザ等対策特別措置法第32条に基づき、政府による「緊急事態宣言」が出た場合は、玉名市における感染症対策本部設置に基づき当会による感染症対策を行う。

2) 応急対策の方針決定

- ・当会と当市との間で、被害状況や被害規模に応じた応急対策の方針を決める。
豪雨の場合：職員自身の目視で命の危険を感じる降雨状況の場合は、出勤をせず、職員自身は安全を確保し、警報解除後に出勤する。
地震の場合：職員自身の目視で命の危険を感じる激震状況の場合は、出勤をせず、職員自身は安全を確保し、警報解除後に出勤する。
- ・職員が被災する等により応急対策ができない場合に、当市または当会の応急的な役割分担を決める。
- ・大まかな被害状況を確認し、1日以内に情報を共有する。

大規模な被害がある	・地区内の10%程度の事業所で「瓦が飛ぶ」、「窓ガラスが割れる」など、比較的大規模な被害が発生している。 ・地区内の1%程度の事業所で、「床上浸水」「建物の全壊・半壊」など、大きな被害が発生している。 ・被害が見込まれている地域において連絡が取れない、もしくは交通網が遮断されており、確認ができない。
被害がある	・地区内の1%程度の事業所で「瓦が飛ぶ」、「窓ガラスが割れる」など、比較的軽微な被害が発生している。 ・地区内の0.1%程度の事業所で、「床上浸水」「建物の全壊・半壊」など、大きな被害が発生している。
ほぼ被害はない	・目立った被害の情報はない。

※なお、連絡が取れない区域については、大規模な被害が生じているものとする。

- ・本計画により、当会と当市は以下の間隔で被害情報等を共有する。

発災後～4週目	1日に1回共有する
5週目～8週目	2日に1回共有する
9週目以降	週に1回共有する

・玉名市で取りまとめた「玉名市新型インフルエンザ等対策行動計画」を踏まえ、必要な情報の把握と発信を行うとともに、交代勤務を導入する等体制維持に向けた対策を実施する。

< 3. 発災時における指示命令系統・連絡体制 >

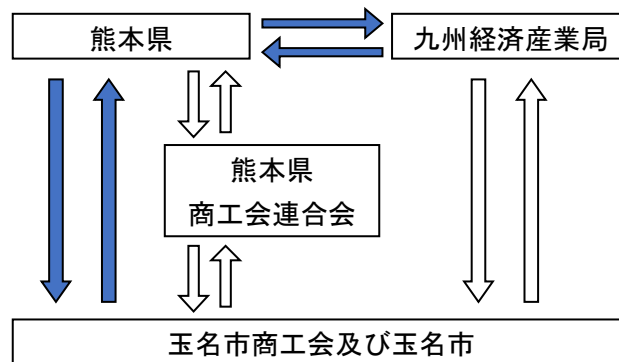
・自然災害等発災時に、地区内の小規模事業者の被害情報の迅速な報告、および指揮命令を円滑に行うことができる仕組みを構築する。

・二次被害を防止するため、被災地域での活動を行うことについて決める。

・当会と玉名市は被害状況の確認や被害額（合計、建物、設備、商品等）の算定方法について、あらかじめ確認しておく。

・当会と玉名市は共有した情報を、熊本県商工振興金融課、熊本県商工会連合会宛てにメール又はFAXにて報告する。

・感染症流行の場合、国や都道府県等からの情報や方針に基づき、当会と当市が共有した情報を熊本県の指定する方法にて当会又は玉名市より熊本県へ報告する。



4. 応急対応時の地区内小規模事業者に対する支援 >

・当会は、臨時に対応できる相談窓口を開設する方法について玉名市と検討のうえ、地区内小規模事業者への周知を図る。（国の依頼を受けた場合は、特別相談窓口を設置する）

・安全性が確認された場所において、相談窓口を設置する。

・地区内小規模事業者等の被害状況の詳細を確認する。

・応急時に有効な被災事業者施策（国、県、市）について、地区内小規模事業者等へ周知する。

・地区内中小・小規模事業者から要請・要望がある場合は、当会・当市で集約し、熊本県と情報共有を行う。

・感染症の場合、事業活動に影響を受ける、またはその恐れがある小規模事業者を対象とした支援策や相談窓口の開設等を行う。

< 5. 地区内小規模事業者に対する復興支援 >

・熊本県の方針に従って、復旧・復興支援の方針を決め、被災小規模事業者に対し支援を行う。

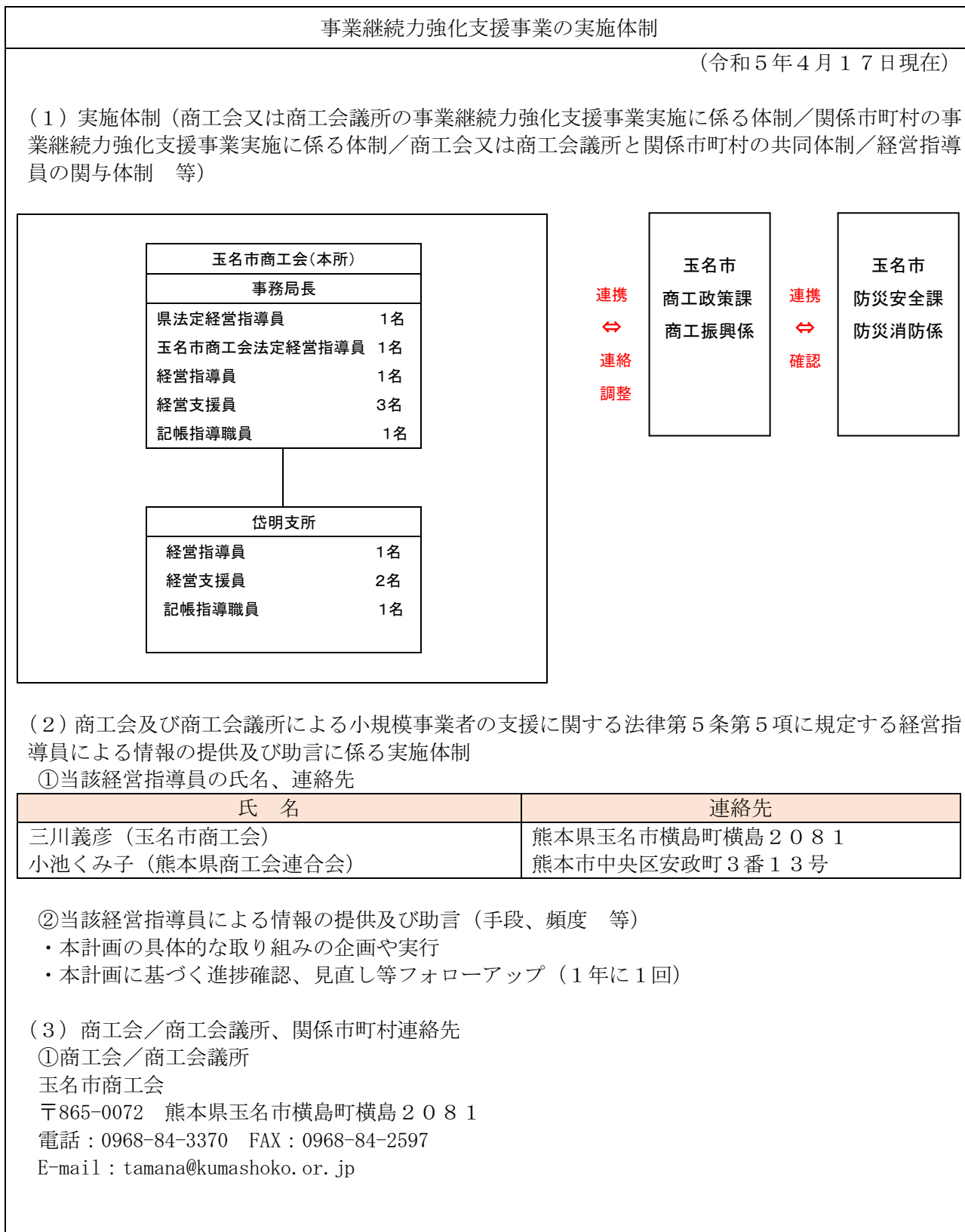
・被害規模が大きく、被災地の職員だけでは対応が困難な場合には、他の地域からの応援派遣等を熊本県等に相談する。

・発災後の各種支援制度（融資制度、補助制度等）についても、国の機関や熊本県等を通じて当会・玉名市で情報収集を行い、事業者への情報提供を行う。

上記内容に変更が生じた場合には、速やかに熊本県へ報告する。

(別表2)

事業継続力強化支援事業の実施体制



熊本県商工会連合会

〒860-0801 熊本市中央区安政町3番13号

電話：096-325-5161 FAX：096-325-7640

E-mail：info@kumashoko.or.jp

②関係市町村

玉名市役所 産業経済部商工政策課

〒865-0025 熊本県玉名市高瀬290-1

電話：0968-71-2065 FAX：0968-73-2220

E-mail：shoko@city.tamana.lg.jp

(別表3)

事業継続力強化支援事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

(単位 千円)

	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
必要な資金の額	73	73	73	73	73
講師謝金	33	33	33	33	33
講師旅費	10	10	10	10	10
資料印刷費	10	10	10	10	10
防災、感染症対策費	20	20	20	20	20

(備考) 必要な資金の額については、見込み額を記載すること。

調達方法
会費収入、県補助金、町補助金、事業収入 等

(備考) 調達方法については、想定される調達方法を記載すること。

(別表4)

事業継続力強化支援計画を共同して作成する商工会又は商工会議所及び関係市町村以外の者を連携して事業継続力強化支援事業を実施する者とする場合の連携に関する事項

連携して事業を実施する者の氏名又は名称及び住所 並びに法人にあっては、その代表者の氏名
連携して実施する事業の内容
連携して事業を実施する者の役割
連携体制図等